

# 「子ども食堂」に備蓄米

産学官民  
事業第1弾 県内4団体へ贈る

AMDA

ひとり親や共働き家庭の子どもたちの居場所となる「子ども食堂」などを支援しようとして、国際医療ボランティアAMDA（岡山市北区伊福町）は12日、県内の関係4団体に備蓄米を初めて配った。

産学官民でつくる組織「こども食堂支援プラットフォームフォーラム」事業の第1弾。昨年12月に発足後、県内に約40あ

るといって子ども食堂の運営団体などに希望を尋ね、4団体から応募があった。

AMDA事務所で行われた贈呈式には、各団体の担当者らが出席し、県産米計120キロを受け取った。ひとり親家庭のサポートなどに取り組むNPO法人「子ども家族生活サポートセンターいとでんわ」（岡山市）のスタ

ッフ岩田豪さん（36）は「特に母子家庭の需要が高く、早速届けたい」と話していた。

同プラットフォームは、子ども食堂などの運営をサポートする狙い。備蓄米は年4回、希望団体に贈ることにしている。

（山内悠記子）



AMDAから備蓄米を受け取る  
団体関係者（右）